

## 第3学年 社会科学習指導案

大牟田市立手鎌小学校 教諭 吹春 千織

### 1. 単元名 「有明のりについて調べよう」

### 2. 単元の目標

- 有明海苔の作り方や、海苔づくりに携わる人々の思い、私たちの暮らしとの関わりについて理解し、調べたことを新聞やパンフレット等にまとめることができる。 (知識及び技能)
- 海苔づくりに携わる河原畑さんのお話や、海苔すき体験をもとに課題を見出し、海苔の生産を維持していくための対策を考えたり、考えたことを伝えたりすることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 有明海苔について知り、有明海苔の生産を支えるという目的意識を持ち、学習したことを社会生活に生かそうとすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

本単元では、有明海の特産物である有明海苔を教材として取り上げる。手鎌小学校校区の河原畑さんをGTとして招き、有明海苔の歴史や、海苔の作り方などについて話をしていただき、実際に海苔すきの体験をすることで、活動への意欲を高めることが出来る。また、海苔すき体験を通して、海苔づくりの難しさや海苔づくりを仕事にしている人々の工夫や苦勞を知ること、自分たちの生活を支えている人がいることを理解し、大牟田の特産物を大切にしていこうという思いを持たせることが期待できる。さらには、環境の変化による海苔の生産量低下という持続不可能な社会状況に気づき、課題を検討し、改善方法を模索するクリティカル・シンキングの向上も図ることができる。

#### (2) 児童観

本学級の児童は、第3学年において、校区探検を通して、校区の土地の様子について学び、大牟田の土地の様子についても学んできている。さらに、「働く人と私たちの暮らし」の「買い物調べに行こう」の学習で、スーパーマーケット見学に行き、見たものや店長の話から、スーパーマーケットが買い物客の需要に応じて様々な工夫をしていることや働く人の思いについて調べる学習をしてきている。

また、身の回りの実態から課題を見つけ、身近な人にインタビューをして調べたり、調べたことについて友達と話し合っ整理したりすることができるようになったこの期に本課題を取り上げる意義は大きい。

### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、海苔養殖業を営む河原畑さんを招き、有明海苔の歴史や、海苔の作り方などについて話をさせていただくことで、有明海苔に興味を持ち、普段何気なく食べていた有明海苔がどのようにして作られているのかを調べる意欲を持たせる。また、海苔すき体験をすることで、おいしい海苔を作ることの難しさや海苔づくりの苦勞に気づかせたい。

次に、海苔づくりについて学んだことをノートにまとめさせる。

そして、海苔の生産量の推移についての資料を提示し、海苔の生産量減少は、国の重要課題であり、このままでは大牟田の特産物である有明海苔が食べられなくなってしまうかも知れないという危機感を持たせる。その上で、海苔の生産量減少の原因は、地球温暖化による海水温上昇であることをつかませ、地球温暖化を止めるために、温室効果ガスを削減させないといけないことに気づかせる。さらに、地球温暖化防止のための対策は、世界的な課題であることから、まずは自分にできること、そしてそれを地域に発信していくことの重要性を理解させ、発信するための方法を考えさせ、新聞やパンフレット、ポスターなどにまとめさせる。

最後に、これらの活動を通して、大牟田には誇れる特産物があることや、その特産物の生産を守っていくために活動できたということを振り返らせ、さらに自分たちにできることはないだろうかと話し合わせることを通して、これからの活動にもつなげていくようにする。

### (4) ESD との関連

#### ・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性・・・現在、海水温の上昇により、日本人の国民食ともいえる海苔の生産量が10年ほど前から減少しており、このまま地球温暖化が進むと、海苔の生産が危機的状況になる可能性があるということ。

連携性・・・これからも、大牟田の特産物である有明海苔の生産を守っていくために、私たちにできることを考えることが大切であること。

責任性・・・私たちの住む大牟田の特産物である有明海苔について知り、そのよさを伝えていくことが大切であること。

#### ・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

##### 批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

海苔づくりの後継者不足や環境の変化による海苔の生産量低下という持続不可能な社会状況に気づき、課題を検討し、改善方法の仮説を立てる。

##### 多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

有明海苔の歴史や作り方について知り、海苔づくりの苦勞や課題、課題解決に向けて自分たちにできることについて調べる。

##### コミュニケーション能力

有明海苔がこれからも安定して生産されるようにするために、自分たちにできることは何かについて、意見交流を通して自分の考えをつくりあげる。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代内の公正

生産者も、消費者も、地球環境も豊かになるような食糧生産を追求することが大切である。

自然化環境や生態系保全を重視する

今後も海苔の生産量を確保するために、地球温暖化への対策は喫緊の課題と言え、温室効果ガス削減のための行動が求められる。

幸福であることを大切にする

自分たちの生活を支えている人がたくさんいることに気づき、感謝の気持ちを持つことが出来る。

・ 達成が期待される SDG s

2 飢餓の解消

14 海洋資源

4. 単元の評価規準

ア 知識・理解	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① 海苔づくりに携わる人々の思いや私たちの暮らしとのかかわりについて理解している。</p> <p>② 調べたことを、言葉や図、絵などを用いてそれらに関係づけながら、新聞やパンフレット等にまとめることができる。</p>	<p>① 海苔づくりに携わる河原畑さんのお話や、海苔すき体験をもとに課題を見出し、海苔の生産を維持していくための対策を考えることができる。</p> <p>② 海苔づくりの課題や対策について学んだことや考えたことを、新聞やパンフレットに表現している。</p>	<p>① 有明海苔について知り、有明海苔の生産を支えるという目的意識を持つことができている。</p> <p>② 海苔の生産の課題をつかみ、自分たちにできることを模索しようとしている。</p> <p>③ 有明海苔の生産について学んだことを、地域の人に納得してもらえるように発信しようとしている。</p>

## 5. 単元の指導計画（全 10 時間）

	学習活動	○学習への支援	△評価 ・備考
1	○河原畑さんを GT として招き、有明海苔の歴史や、海苔の作り方などについて話を聞く。 ・有明海苔の作り方や河原畑さんの思いについて知る。 ・海苔づくりで大切なことや困っていることを質問する。	○有明海苔の歴史や作り方、海苔づくりへの思いなどを説明してもらうことで、有明海苔のよさや海苔づくりについて学ぶ意義を考えさせるようにする。	△ウ 1
2	○海苔すき体験をする。 ・海苔づくりの難しさや苦勞を知り、海苔の生産に携わる人々への感謝や憧れの気持ちを持つ。	○海苔づくりの難しさや苦勞を知り、海苔の生産に携わる人々への感謝や憧れの気持ちを持つことができるように海苔すき体験をする。	△ア 1 △ウ 1
3	○海苔の作り方についてまとめる。 ・河原畑さんのお話や資料をもとに海苔の作り方について調べ、ノートにまとめる。	○海苔づくりの工程について簡単にまとめる。	△ア 1
4	○海苔づくりの課題について調べる。 ・河原畑さんのお話や資料をもとに、海苔づくりの課題について調べる。 ・地球温暖化の影響で海水温が上昇し、日本の海苔の生産が危機的状況にあることを知る。	○海苔の生産枚数の推移についての資料を提示し、2008 年頃から海苔の生産枚数が減少していること、またその原因が地球温暖化による海水温の上昇であることをつかませる。	△イ 1 △ウ 1
5	○課題解決に向けて自分たちにできることを話し合う。 ・地球温暖化の原因は CO2 などの温室効果ガスが増え続けていることだ。 ・温室効果ガスを削減するために、できることを話し合おう。	○課題解決のカギは温室効果ガスの削減であることをつかませ、地球温暖化を止めるために、自分たちにできることを調べさせる。	△イ 1 △ウ 2
6	○調べたことを地域の人に発信するために、新聞やパンフレットを作成する。 ・有明海苔はおいしく、日本の海苔の生産量の約半数を占めることや、地球温暖化の影響をわかりやすくまとめよう。	○地球温暖化を止めるためには、国全体、世界全体で取り組まなければならないことを確認し、まずは大牟田に住む人に発信するために、わかりやすくまとめさせる。	△ア 1 △イ 2 △ウ 3
7	○活動の振り返りをする。 ・これからも、有明海苔を大事にしたい。 ・大牟田の特産物についてもっと調べたいな。	○何気なく食べていた有明海苔に対する見方の変容を認め、今後も大牟田の特産物を大切に守っていかうとする意欲を持たせる。	△ウ 2